富山経済同友会

会報
2021.7月
No.302

創立60周年記念講演会〔オンライン講演〕（６月12日）

CONTENTS

- 創立60周年記念講演会 …… 2
- 【講演録】創立60周年記念講演会（安宅 和人 氏）… 3
- 富山県との意見交換会 …… 9
- 第１回委員長会議 ……10
- 第１回企画総務委員会 ……10
- 第80回あけぼの会ゴルフコンペ ……11
- 課外授業講師派遣 ……12
- 教育講演会等講師派遣 ……14
- リレーエッセイ㉓（嶋 龍仁 氏）……16
- 活動報告 ……17
- 事務局からのお知らせ ……18
- 今後の予定 ……19
- わが青春の１枚（増山 一雄 氏） ……20

未来を描き、実践しよう

安宅和人氏オンライン講演 ～ 創立60周年記念講演会 ～

創立60周年記念講演会が６月12日㈯に開催され、慶應義塾大学環境情報学部教授・ヤフー㈱ＣＳＯの安宅和人氏（富山県出身）が「残すに値する未来を考える」と題して講演を行った。

当初は安宅氏に来県いただき、リアル・オンライン併用で講演会を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、東京からのオンライン講演に変更となり、会員の他、学生、一般の参加者を含め約850人が視聴した。

当日は、富山国際会議場の会議室をオンライン配信会場とし、同会議室で講演会の進行を行い、司会は羽根由常任幹事が行った。

羽根常任幹事

冒頭、麦野英順代表幹事が挨拶。「富山県では、新田知事の下、ＤＸ・働き方改革推進本部を設置して、ＤＸの旗振り役を始めた。産業界・地域社会もＤＸの推進、ＤＸ人材の育成の必要性を感じている。また、富山大学、富山県立大学でもデータサイエンス教育を始めるなど、地域全体が持続可能な社会の構築に向け、本気になって取り組み始めている。本日、安宅先生には、我々同友会会員の今後の活動だけでなく、将来の日本・世界を担う高校生、大学生、若者たちに対して多くのヒントやメッセージをいただきたい」と挨拶した。

麦野代表幹事

安宅氏は、まずご自身が力を入れている３つの活動について説明した。１つめはデータ×ＡＩの知識の基礎教養化とデータサイエンスの専門家層・リーダー層の育成、２つめは未来に賭けられるような社会にするための基金の創設、３つめはサスティナブルで都市に変わる空間を生み出す「風の谷」的未来をつくる活動を紹介した。

その後、残すに値する未来を創出するために今後実践していくべきポイントを１つ１つ説明した。

変化に対応できない組織や人は目先のことばかりに集中すると指摘したうえで、変革期にあたる今、夢を描き全体を構想する力が重要であると説き、「今は大きなチャンス。夢を描き、新しい技術を使って現状を刷新できるかが鍵になる」と強調した。また、日本語・英語・ＩＴスキルを身に付けることをアドバイスするとともに、社会はチームで動くものであり、自力でやる発想を捨て、多種多様な友達がいるか問いかけてみて欲しいと若者にメッセージを発信した。（詳細は講演録を参照）

講演終了後の質疑応答では、学生を中心にオンライン視聴者から活発に質問がぶつけられ、データサイエンスや起業、都市と地方の持続可能性等、多様な質問に対して安宅氏から丁寧かつ熱心なフィードバックがなされた。

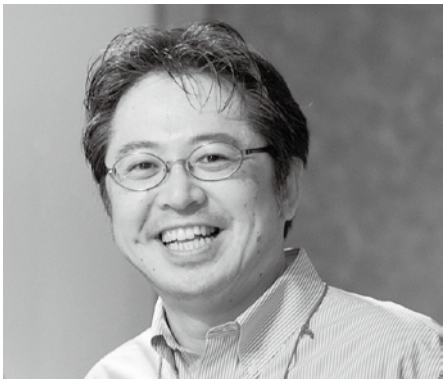
塩井代表幹事

最後に塩井保彦代表幹事は、安宅氏はじめ本日の講演会に参加した方々に感謝の意を述べ、創立60周年を迎えた富山経済同友会は、次の70周年に向け「残すに値する未来」をつくる企業集団を目指すことを誓い、閉会の挨拶とした。

創立60周年記念講演会（2021. 6. 12）

「残すに値する未来を考える」

講師：慶應義塾大学 環境情報学部教授 ヤフー株式会社ＣＳＯ（チーフストラテジーオフィサー） 安宅 和人　氏



〔講師プロフィール〕

マッキンゼーにて11年間、幅広い商品・事業開発、ブランド再生に携わった後、2008年からヤフー。2012年よりCSOとして戦略全般を担当。2016年より慶應義塾SFC（現兼務）。総合科学技術イノベーション会議（CSTI）基本計画専門調査会委員ほか公職多数。データサイエンティスト協会理事・スキル定義委員長。都市集中型未来に対するオルタナティブ創造を目指す一般社団法人『残すに値する未来』代表。東京大学生物化学専攻 修士（理学）。イェール大学脳神経科学 PhD。著書に『シン・ニホン』（NewsPicks 2020）『イシューからはじめよ』（英治出版 2010）ほか

◆　３つのアスピレーション

「一人産官学ライフ」のような日々を、３つのアスピレーションを持って送っております。その１つ目は人材像の刷新です。

これから起きる競争は、ＡＩvs. 人間ではなく、データやＡＩを利活用する人と自分とその周りの経験だけから学び、データやＡＩの力を使わない人の競争になることは明らかです。中国では中高の段階から深層学習などのデータ×ＡＩ教育を2018年に開始していますが、日本では高校生の科目として「情報Ⅱ」が通ったばかりで、遅れています。

データの力を解き放つにはスキルとしてデータサイエンス力、データエンジニアリング力、この２つを実課題につなげるビジネス力が必要です。これからの基礎教養としては、母国語、世界語、問題解決能力の他にデータ×ＡＩの４つが基礎になります。文系、理系に関係なく、海外同様に計算機科学を全大学で行うべく、2015年春には、数理、データサイエンス能力の育成をしたほうがいいと長年働きかけ、こちらはなんとか進んでいます。また、専門家層、リーダー層の育成のため、データサイエンティスト協会でIPAと共に作成してきたスキルチェックリスト、タスクリストが、これらのモデルカリキュラムのもとになっています。

２つ目は、未来に賭けられるような社会にすることです。

世界的には科学技術競争で米中が争っていますが、中国は、科学技術予算や論文の量でも既に米国を抜いて１位で、2017年以降、購買力平価ベースで世界一の経済規模を誇っています。片や日本では、高等教育に競争に見合う資金が投じられていませんし、学位取得も金銭的にまなりません。海外では寄附等を通じて大学は回っていますが、これもなっていません。

この背景には、我が国のお財布問題があります。毎年兆円単位で増える社会保障費が120兆円もあるため、70兆円規模の社会保険料とその運用益では全く足りず、この不足部分年間約45兆円を事実上、国の一般会計で補填している状況だからです。

研究開発力強化のポイントは今いる人の質というよりも財源であり、その要は安定的な資金を生み出すための基金です。国家百年の計として、この必要を年単位で働きかけ続けてきましたが、こちらが通ったことで、約10兆円の研究大学の研究支援基金が創設されることになりました。現在、この運用のあり方と使い方について真剣な検討が進んでいます。

３つ目は、持続的に維持可能で都市集中型の未来とは別の選択肢を生み出すことです。

世界各地で動いていたスマートシティ構想は、基本ほぼすべて失敗しました。単にデジタル化すればいいというような都市づくりのビジョンを根底から変えなければなりません。

限界集落問題は、日本だけではなくヨーロッパやアメリカでも起きています。どの国でも人口が減っているからではありません。人が都市へ集中し続けているからです。このままでは疎空間は捨てられ都市にしか住めない未来になります。これが人類にとって正しい未来なのかという問題意識を持ち、テクノロジーを使いながら自然と人間が共存できる「風の谷」的未来、都市集中型の未来に対するオルタナティブをつくり出すために多くのエネルギーを注いでいます。

『シン・ニホン』6章「残すに値する未来」の扉に「明日、世界が滅びるとしても、今日、君はリンゴの木を植える」という開高健先生の言葉を載せました。諦観ではなく、何がやれるかを考えて仕掛けるのが未来に向けて責任を持って生きる人間としてのスタンスだと思います。

◆　未来を創出するポイント

・手詰まらない仕込み

今回の不景気は特殊なタイプで、対人顧客フロントを持つサービス産業は重傷ですが、追い風が吹くインターネットをはじめ、実は多くの産業はほとんどダメージを受けていません。

不連続性の高い世の中ですが、1990年代にマッキンゼーで行われた研究では、変化に対応できる組織や人、国は、目先の確実なことはある程度に抑え、中長期や刈り取り時期不明のことに相当量のリソースを割いていることが分かっています。

碁や将棋に次に有効な手が打てなくなる「手詰まり」という言葉がありますが、手詰まらない未来をどう仕込んでいくかということです。

・虚数軸的視点を持つ

大きな変化を示唆するニュースが昨年７月１日に流れました。クルマ会社として世界一の企業価値を誇ったトヨタをテスラが抜き去ったのです。トヨタの時価総額20兆円は今もほぼ変わりませんが、今やテスラはその３倍以上の約70兆円で世界のトップ10カンパニーです。来るべきものが来たということです。同社がその３年前にトヨタと販売台数で並ぶGMを抜き去った時は販売台数が100倍以上違っていました。なぜこうなったのでしょうか。

富は企業価値から生まれる時代に突入しています。企業価値の総和の伸びと比べるとGDPは世界的に大きく伸びていません。従来はシェアさえ取れば大きな企業価値につながったのですが、今は社会的なアップデートを生み出せないとまとまった企業価値を創出しにくい社会に突入しているのです。新技術群による革新が広がってしまえば、2050年頃には市場シェアの時代に戻るかもしれませんが、新しいテクノロジーをテコにした産業刷新が続く限り、しばらくは多くの産業分野でこの状態が続くはずです。

テスラCEOであるイーロンマスクは、テスラはモビリティーカンパニーとは言っていません。「世界をサスティナブルなエネルギー社会にするのを加速する」のがテスラのミッションと。このように「夢を描いて形にする力」が富に直結する時代なのです。

大きければいい、刷新は二の次のように言われた時代は90年代まで続きましたが、これからはゼロ・トゥー・ワン、実数軸（モノ、カネ）での大きさよりも、新しいデザインや技術を使って、既存の仕組みを刷新することが重要になってきます。虚数軸（データ＆ＡＩ、ロボット）的な視点を持ち、自分たちは仕掛けられているかを考えることが大切です。

この変化の一つの大きな背景には、中国を含め、世界のGDPの大半を占める主要経済国はすでに人口調整局面に突入していることにあります。すでにシェアの大きな会社にとっては強いダウントレンドが働いているのです。規模を持つ会社にはダメージの高い局面ですが、現在のシェアが低いスタートアップにはこのトレンドはほぼ関係がありません。

・多種多様な友達をつくる

産業革命には３つの段階がありました。まず、

新しいエネルギーや技術が生まれ、次に、様々な分野での応用が進み、第３段階としてこれらがつながり合って複合的なエコシステムが構築されました。ちなみに日本は第１フェーズには参加しておらず、第２、第３フェーズで勝利した国です。

データ×ＡＩのもたらす革命については、インターネット共に大量データ処理技術が確立し、次に2014年、深層学習技術が急激に立ち上がり、この六、七年で未来は変わりました。第１フェーズが今ほぼ終わりつつあるという見解です。Covid19のせいもあって数年早く deployment（実装）のフェーズ２に一気に入り、我々は多くの産業が一気に変わる瞬間に立ち会っています。百年に一度のような大波に出会えることはラッキーです。この後、フェーズ３、これらがつながり合うインテリジェンス・ネットの時代に突入することはほぼ確実です。

新フェーズでは deploy（ディプロイ：実装・適用）こそが勝負で、新しい変化を仕掛ける人が圧倒的に大事になります。習ったことをただまねる局面ではありません。夢や課題を描き、どういう技術であればそれが deploy できるのかを考え、全体として人間が受容できる状態にデザインできるかが大切です。この「未来＝夢×技術×デザイン」という「未来の方程式」は内閣府の知財戦略ビジョン検討に参画していた際、提案し、採用されたものです。どのくらいすてきな未来を描けるか、それをどうやってつなぎ合わせるかが勝負になるということです。

普通は発想しないであろう、モーターとエンジンの両方を積むプリウスのような車を日本人は造ります。日本は、このように組合せで何かをデザインするのは得意な国です。

従来の競争型人材の時代は終わりつつあります。面白いことを仕掛ける人、つないで形にする人、そして全てを知る人はいないので、相談相手がいる人が鍵になります。自分の専門とする分野を超えて多種多様な友達がいるかどうかを自らに問いかけてもらいたいのです。

大事なのは全部自力でやる発想を捨てることです。ヤバいことを仕掛けるには、ヤバいチームが要るのです。社会はチームで動きますので、多くの仲間をつくりましょう。

・軍事教練マインドからの脱却

出来上がった社会を回す人も重要ですが、ほんの一部でも未来を変える人が出てくることが大切です。それには、問いや正解を与えられる世界や軍事教練マインドからの脱却が必要です。小中学校で「気をつけ、前へ倣え」のような訓練を普通に行っているのは、ＯＥＣＤ諸国の中で日本だけです。根底から考え直して、ワイルドに仕掛ける側の生き物になる人が、皆さん、いまの若い世代のなかから一人でも多く生まれることを期待しています。

・文理分断からの脱却

データ×ＡＩの力を解き放つと人の役割として残る「自分らしく見立て、決めて、人に伝えられること」がいままで以上に重要になります。

現在、高等教育では情報科学、電気工学、建築、法律、哲学、デザインなど部門別に人が育成されています。いま必要なのはこれらを横断的につなぎ合わせ、自分なりに考えられる人です。

「文理」で分かれた発想では、生み出せるはずの未来も生み出せなくなります。文理分断からの脱却を、林文部科学大臣のとき、Society5.0時代の人材育成検討で相当我々検討メンバーは訴え「文理分断からの脱却」という言葉が打ち出されました。未来の多くは言ってみれば文系的課題をテクノロジーで解くことから生み出されるからです。

リベラルアーツは、ギリシャ・ローマ時代、自由民に必要とされる基礎教養として生まれた自由の技術というべきものです。自分の考えることを正しく整理し､伝える能力である３学(文法学、修辞学、論理学）と自然科学４科から成ります。これは本質的にＳＴＥＡＭ教育に近い概念です（STEAM = Science, Technology, Engineering, the Arts and Mathematics)。

特に３学的な能力は理系、文系に関係なく持っていたほうがよく、しっかりと考え、明晰に

人に伝える力はデータ×ＡＩでも明らかに基礎と言えます。

・ＡＩの使い方

ワーク・ライフ・バランス（Work Life Balance）に対して、落合陽一さんの言うワーク・アズ・ライフ（Work as Life）的な人生を私は送っていますが、恐らく二、三十年後には、生きていることそのものが価値になる「ライフ・アズ・バリュー（Life as Value）」の時代に突入します。これは、一人ひとりの存在価値は「自分の自分らしさ」から生まれるようになり、所得イコール給与の時代がなかば終わるということです。給与に個人収入、投資収入、そして社会保障を加えたものが所得になる時代になります。根底からライフプランニングを考え直すべき未来に我々は向かっています。

ＡＩの話を少し深掘りします。５年前の春、囲碁界で魔王とまで言われたイ・セドルがディープマインドの囲碁ＡＩ「AlphaGo」と５戦して４敗１勝、また翌年、世界の非公式ランク１位のカ・ケツが３戦３敗の結果となったことは、恐らく人類は碁ではもう二度と本気のコンピューターに勝てなくなったことを示しています。この背景には、AIは人間では不可能なレベルの広がりで手を検討していることがあります。探索空間が圧倒的に広いのです。一筆だけで絵の真贋を判断したり、起業したスタートアップの成否も分かったりするAI出現の背景にはこれがあります。

つまり、ＡＩは人間には見えないものが見えるのです。AIはすでに人とほぼ同レベルの翻訳を多国語でも瞬時に行えますし、硬さや重さ、重心も違うモノのピッキング作業なども可能になりました。情報の識別・予測・目的が明確なことの実行過程はことごとく自動化されるので、これらの力を誰がどう解き放つのかの戦いになります。

・うまくループを回し、重ねる

機械学習ベースでＡＩをつくるには通常まとまった量のデータが要ります。そこでデータは「21世紀の原油」とも言われますが、これにはトリッキーなところがあります。データは、そもそも値付けが困難です。目的がなければ価値は持ちようがありませんし、目的があっても鮮度が高くないと価値がないことが多い。さらに、面白い事象が集積するロングテール部分を取れるのかによって価値は変わります。位置情報を一つ例にとっても取れる情報のメッシュの細かさで全く違います。

ＡＩをつくるには訓練量としてある種のデータが要るケースが多いため、データとＡＩは表裏一体的な部分があります。いいサービスができると人も集まって、データが集まり、一層アルゴリズムがよくなり、サービスがさらに良くなります。このループをうまく回せるかが重要です。

インテルが２兆円も投じて買ったモービルアイという自動走行のＡＩのスタートアップ会社があります。例えば事故予測では、アラートを出してリスク回避し、安全運転するとデータがたまり、画像処理のＡＩを強化します。これ自体が一つのループですが、さらに位置情報と地理情報もひもづけてループを回しているのです。このように、何重にもループを回すことが大事です。データをただ取得するだけではだめなのです。

・「スマホ新大陸」への適応

人が集まるところをプラットフォーム（PF）と言います。富山だと富山駅もそうです。デジタルの世界ではデバイスのことと思われがちですが、アプリやミドルウエア、基盤系にもプラットフォームがあります。また、Ｃ（一般人）向けとＢ（法人）向けがあります。

Ｃ向けを見ますと、アプリ系では、ヤフーやＬＩＮＥ、Ｅコマース、エアビーやウーバーなどのマッチング、Zoomなどの知的生産やテスラのエネルギーにも広がっています。一方Ｂ向けは、アプリ系で、グーグルの企業価値の中核であるデジタルマーケティングのPF、フラグメント化した印刷や配送業界を束ねるラクスル、工場エアビーのエアファース、基盤系では、１兆円近い企業価値を持つ、ロボット物流基盤

のKiva systems（現Amazon robotics）などがあり、それぞれが強みを持っています。先程のテスラがＧＡＦＡに並びつつあることから分かる通り、ＧＡＦＡが終着点なわけではありません。

企業価値のランキング（2020年12月）を見ますと、トップ10カンパニーは、サウジアラビアの国営原油会社を除けば、アップルやマイクロソフト、アマゾン、アルファベットと続きますが、多くが同じPF上で飯を食っています。それはスマートフォンです。つまり、現在、世界最大の市場を生み出す場所、新大陸はスマホなのです。未来を創出するなら、その時代に即したPFや場所をよく見て考えることが必要です。

ドイツで今一番勢いのあるスタートアップの一つN26は「スマホ大陸」への移住の一例です。このように時代に即した新大陸/PFに適応するようなサービスを創ることが未来と富の大きな源泉となります。

・中国から目を離さない

もう一つの大きな変化は、数百年を経て、経済の中心が急激にアジアに戻ってきていることです。中国の実質経済規模1位は先述のとおりですが、実質規模でみると実は日本はインドにも既に抜かれています。アジアでのトップ大学のランキングにおいても、中華、シンガポール系に抜き去られています。

中国語は世界語に加わりつつあります。今や英語だけでは最先端情報が十分には得られない状態にまで来ています。中国で生まれつつある未来をちゃんと見続け、それぞれの意味合いを理解することが大切です。私が持つヤフーの市場インテリジェンス系の部隊でもチームごとに中国語が分かる人を置いています。

日本は、中国という最大規模の市場の隣にあり、第2の経済大国・アメリカとは強い同盟国です。両方の橋渡しの意味でも、千載一遇のチャンスが生まれつつあります。

・ディザスター・レディー（disaster-ready）

さて、COVID19の出現は何を意味するのでしょうか。現在、質量ベースで見ると、地球上の哺乳類の96％が人間と家畜です。つまり人間界と野生動物界の近づき過ぎが大きな元凶であり、コウモリからCOVID、猿からＨＩＶなどが来ています。しかも温暖化が加速していますので、あと二、三十年で約3度気温が上がり、永久凍土が解けることでこれまで人類を苦しめてきた様々なウイルスと細菌がこちらからも吹き出てくる可能性が高いのです。

私は昨年2－3月頃、当時期待されていたようにはアフター・コロナなど簡単に来ないと話し、「ウィズ・コロナ」社会が当面1－2年の間続くと訴えていました。実際そのとおりの展開が起きています。背景も含めて突き詰めて考えるとパンデミック・レディー（pandemic-ready）な社会に向かうべきだということはほぼ明らかです。

今後現れるであろう様々なパンデミックのことを考えると、密閉×密を前提とする従来の都市型文明とは逆向きのトレンド、密閉から開放、密から疎に向かう力、「開疎」化に向かう力、が働いていることは否みがたい。とはいうものの我々は効率性、利便性の視点から都市を捨てることはそう簡単にできません。この視点で考えると、密閉された密な都市空間をどう「開疎」にするかが大きなポイントになります。今やらなければ、今回はワクチンで沈静化しても何年後かにはまた何かがやってきて、対応できなくなります。息を止めてこの変化が過ぎ去るまで我慢するみたいな発想はやめ、大胆に都市空間を刷新すべきです。実際に福岡の天神では、そうした開疎でパンデミックレディな都市開発が始まりつつあります。

一方、Covid19による世界的な行動抑制で下がると期待されていた気温はほとんど変化がないことがわかっています。日本と緯度がさして変わらないメキシコで夏に2メートルの雪が降るかと思えば、中東は50度以上という気温が現れつつあります。環境省は、約80年後の2100年に東京は今の南インド並みの気温、また台風の最高風速は90メートルになると予想しています。

そうした時代を生きるには、まちと建物をつくり直す必要があります。標高地形図を見ます

と、東京は東側にゼロメートル以下の場所が多いので、台風による浸水のようなことが毎年起きてもおかしくありません。名古屋や大阪も多くがゼロメートル以下か標高の低い地帯です。

Ｍ９級の巨大地震は、スマトラ島沖の７年後、2011年に日本でも起こりました。地象的にはかなりリスクの高まった時期といえます。南海トラフの議論が目立ちますが、いま日本の近くでもっともリスクが高いのは東日本大震災で大きく動いた日本海溝の北にある千島海溝だと想定されています。２次３次災害的にはフクイチで起きたような危険物質の拡散も起こり得ますので、社会をいかに迅速にディザスター・レディー（disaster-ready）に変容できるかが課題です。

５月末に発表した内閣府のデジタル防災の未来構想チーム検討では、まず、電気と通信を落とさない「ノー・ブラックアウト」を実現した上で、第一に防災デジタルツインをつくり上げ、徹底的なシミュレーションを可能にしようと提言しました。第二に、人の安否やインフラの状況など、リアルタイムでの情報共有。提言の３つ目は、指令塔機能を絶対に守るための、中央政府等のデジタル空間移転、ハイブリッド化です。３つ目と言っていますが、ある意味、これがデジタル防災の一丁目一番地といえます。

以上見てきたとおり、平和の定義には、戦争がないことだけでなく、ディザスターやパンデミックで破壊されないことも加わりました。これからは人間と地球を重ね合わせて考える必要があります。デジタル化は大事ですが、あくまで手段です。サスティナブルな未来の創出は巨大な産業につながります。

◆　一人のワクワクから変わる

〔運動の起こし方をテーマとしたＴＥＤの講演動画を上映。突然上半身裸で踊り出す一人に追随者が出て、やがてそれが集団になった映像を通して、講師が、彼をリーダーに変えた最初のフォロワーを大切にすること。肝心なのは自分ではなく運動。リーダーシップを過大評価しない。全員がリーダーになるのは効果的ではない。運動を起こすなら追随する勇気を持ち、他人にもその方法を示すことを教訓として話す〕

つまり、一人のワクワクから変わるのです。面白いことを始める人に率先してフォローすることも大切なリーダーシップになります。みんなが仕掛ける必要はありません。未来を生むのは自分が最初に立ち上がることだけではないということです。

人間は誰しも成長しますが、問題はスピードです。気づきの数が成長の全てです。単なる知識の増加ではありません。また、家族や恋人のこと以外で悩む暇があったら、前向きに考え、目の前の課題を解決していきましょう。

Joi Ito（伊藤穰一）さんの本『Whiplash』では、安全を求めている限り未来はない、仕掛けたほうがいい。理屈よりも実践。今の時代に必要なのは強さよりもしなやかさ。どこにもない地図よりコンパスをと記しています。いずれもそのとおりです。

最後に基本的な心得として、お伝えしたいことをいくつか。

- 不条理を認めない。日々の中での問題の克服を成長と考える。
- 文句は言うが、言った人が直す。
- 目線は上げる。常に勉強する。
- 分からないことはやってみる。
- スタイルも気にしない。なきゃならないものはない。
- 垣根も天井もない。もっとやれると思えば背伸びする。
- 何らかの分野でオタクであることは大切。
- 日本語、英語、ＩＴスキルはツールとして身につける。

残すに値する未来に向け、ワイルドに仕掛けていきましょう。

官民連携の強化を確認
―富山県との意見交換会―

６月２日㈬、ホテルグランテラス富山にて、富山県幹部との意見交換会を開催した。

富山県の諸課題について県と当会が今まで以上に連携を図っていく必要があることから、県側に申し出し、今回は、４月に発表した地域創生委員会と人財創出委員会(現人財活躍委員会)の提言について意見交換を図った。

富山県側は新田八朗富山県知事、横田美香副知事、三牧純一郎知事政策局長、助野吉昭地方創生局長、岡本達也経営管理部長、布野浩久商工労働部長ら県幹部が９人出席、当会側は麦野英順・塩井保彦代表幹事、牧田和樹・桶屋泰三副代表幹事、稲田祐治・石坂兼人常任幹事、中澤宏・山野昌道・吉田守一幹事の９名が出席した。

麦野代表幹事は冒頭の挨拶で「コロナ禍で先行きが不透明な時代だ。人口減少、少子高齢化など多くの問題があり、行政と民間が連携を深めて乗り切ることが大切だ」と述べた。

麦野代表幹事

当会の特別顧問でもある新田知事は「懐かしい顔が並んでいる。キャッチボールをしながら情報共有し、官民連携の実がなるようにしたい」と挨拶した。

新田知事

次に、地域創生委員会の提言について山野幹事が県と市町村が一体となった行政のデジタル化推進策、産学官連携による社会全体のデジタル化の方策を中心に説明した。県側からは、知事を本部長としたＤＸ・働き方推進本部を設置し、６月４日に初会合を行うとの説明があった。

山野幹事

また、山野幹事は提言のほか、今年３月に地域創生委員会が作成した「とやま半日観光コースガイドブック」を紹介、横田副知事から高評価のコメントをいただいた。

横田副知事

次に、人財創出委員会の提言について中澤幹事が地方創生テレワークの推進、ＵＩＪターン・人材マッチングの促進、起業支援に関する内容を説明した。県からは３月に実施したワーケーションツアーで通信環境の一層の充実、個室がほしいなどの要望があったことを紹介、今後兼業・副業について富山県人材活躍推進センター等で積極的に推進していくなどの話がでた。

中澤幹事

意見交換後、新田知事からは「このような意見交換を継続して行っていけたらいいと思う」と要望があった。

最後に塩井代表幹事は「コロナで意見交換会のあとの懇親会は残念ながら中止となったが、コロナが落ち着いた時には是非、懇親会も開催し、より親睦を深めていきたい」と挨拶し、意見交換会は終了した。

塩井代表幹事

6 委員長が方針を語る
～第１回委員長会議～

５月11日㈫、令和３年度第１回委員長会議が富山電気ビルデイングで開催され、常任幹事以上の役員、各委員会委員長の計16名が出席した。

会議では各委員長より委員会の活動方針および事業計画について説明があり、その都度質疑応答をしながら活発に意見交換を行った。

当会は４月27日の創立60周年記念式典でＳＤＧｓ宣言を行い、今年度から2030年度まで積極的にSDGs活動を推進していくこととしており、各委員会からはＳＤＧｓに関する様々な活動案が出された。

麦野英順・塩井保彦両代表幹事からは、会報の活動報告でSDGsに関するものとそうでないものが分かるように表示する、年間のSDGs活動をホームページで紹介してはどうか等の提案があった。

次回第２回委員長会議は、11月９日㈫に行われ事業の進捗状況について報告を行う予定である。

今年度の活動方針と計画について
― 第１回企画総務委員会 ―

５月６日㈭、第１回企画総務委員会（桶屋泰三委員長）が事務局会議室にて開催された。新体制による委員６名が参加し、今年度の活動方針と活動計画について意見交換を行った。

桶屋委員長の挨拶の後、活動方針と活動計画を共有し、特に重要な活動、今年度新たに追加された活動内容を中心に議論した。

桶屋委員長

ＳＤＧｓ推進の統括については、あくまで各委員会の自由な活動を尊重し、状況把握にとどめ現状をとりまとめていく方針で一致した。

会員増強においては、会員数や参加状況等を把握したうえで、会員数の増加のみならず参加率向上を目指すことが必要との意見が出た。

また、運営等の方針策定について、より会員主体の活動とするための意見交換が行われた。当会活動の中で会員が行う内容を具体的に示すルールの策定や会員による担当制、委員会当日の作業参加といった意見が挙がった。

新たなテーマである事務局のデジタル化については、まず現状の業務内容を整理し、省力化の必要性についてそれぞれ検討していくこととなった。

多岐に渡り大変活発な議論が行われ、今後の活動に向けて弾みのつく第１回委員会となった。

第80回あけぼの会ゴルフコンペ

― 優勝は山村隆彦氏 ―

6月6日㈰、呉羽カントリークラブ立山コースにて、第80回あけぼの会ゴルフコンペが開催され、70名のあけぼの会会員が熱戦を繰り広げた。前回に続き、新型コロナウイルス感染拡大対策として表彰式・懇親会は開催せず、ラウンドのみを実施した。

優勝の栄冠はネット70.7、グロス92で山村隆彦氏（㈱日立製作所）が獲得し、優勝賞品として、県内で活躍するガラス作家の作品（大皿）が贈呈された。

また、麦野・塩井両代表幹事から代表幹事賞の提供があり、麦野代表幹事賞は、大野賢治氏（菱機工業㈱）が、塩井代表幹事賞は小杉康夫氏（GRN㈱）が受賞し、それぞれ富山県ゆかりのガラス作家による作品が贈られた。

今回も表彰式は見送ることとなったが、好天の中、各組参加者は一層の親睦を深めていた。

また、今回をもって森幹男氏が世話人代表を退任し、新たに長谷川達雄氏が就いた。

ラウンドを終えた参加者らは、それぞれのプレーを振り返りながら、皆清々しい笑顔とともに呉羽カントリーを後にした。

（敬称略）

順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	山村　隆彦	48	44	92	21.3	70.7
2位	長崎　　衛	54	44	98	27.2	70.8
3位	川口　義春	47	43	90	18.9	71.1
4位	遠藤　忠洋	41	42	83	11.8	71.2
5位	多賀　　満	50	44	94	22.5	71.5

「働くこと」「未来を生きる」とは
― 課外授業講師派遣 ―

第１回　砺波市立出町中学校

令和３年６月３日㈭、山野昌道氏（㈱チューリップテレビ取締役社長）が砺波市立出町中学校において、３学年213名を前に「未来を生きる」をテーマに課外授業を行った。

山野社長ははじめに「なぜ働かなければならないのか」と生徒に問いかけ、「社会人になる、働くとは、みんなが社会で何らかの役割をもって参加し、社会をみんなでつくることである。なぜ働くのか、自分なりの考え方を持とう」と語りかけた。

次に、大学時代はアナウンサー志望だったことなど自身の経験を基に「自分のやりたいこと、夢を持つべき。ただ、夢や考え方は変化していく。夢を見つけていくためには日々考え、行動し続けるなど１日１日を一生懸命生きることが大切」と説いた。

ＡＩ（人工知能）の利用やグローバル化が一層進むこれからの時代は、プロフェッショナルであること、共助の精神、人間でなければできないこと（真面目さ、外向性、協調性などの性格スキル）がさらに求められるとし「求められる資質は①チームプレーのできる人、②未来を切り開ける人、③正しい倫理観を持った人である」と訴えた。

「“未来を生きる”ということは“未来のために今を生きる”ということ」と山野社長

最後に、これからの人生を幸せにする３つのコツとして①迷ったら“やる”、②人のせいにしない、③ポジティブ・シンキングを挙げ「どちらが正しかったかは一生わからない。選んだ方を正解とし、未来のために今日１日を積み重ねていこう」とエールを送り、講演を締めくくった。

第３回　富山市立北部中学校

令和3年6月30日（水）、遊道義則氏（㈱ユニオンランチ取締役社長）が富山市立北部中学校において、全学年474名を前に「働くということ、生きるということ～知っている・できる・やる～」をテーマに課外授業を行った。

遊道社長ははじめに、言葉の不思議さと大切さに触れ、人間は自分の発する言葉によって支配され統御されていることから、「良い言葉、前向きな言葉を使うことが大事である」としたうえで、「言動には、意識に関わらず必ず肯定的な意図があり、常にそのとき可能な最善の選択をしている。起きてしまった出来事や過ぎてしまった時間は絶対に元には戻らないが、そのことに前向きな『意味付け』をすることが重要である」と強調した。

続けて、人生とは常に何かを選択しながら、自己実現を図り幸福を追求し続けるものであり、「今の自分を卑下したり現状に満足したりせず、自分の可能性を信じて、積極的に変化し成長するために、いろいろな冒険、挑戦をしてほしい」「自分の人生を楽しくできるかどうかは自分次第」と説いた。

「今の自分に満足するな！」と遊道社長

そして、「『知っている』ということと、『できる』ということは全然違う」としたうえで、「大切なのは『やる』ということ。経験から得るものは非常に大きい。やらない言い訳ばかりして先送りするのではなく、必要なことは、すぐに、何でも、出来るまでやってほしい」と訴えた。

最後に、「働く目的はお金だけではない。自分の実力を発揮し、世の中に貢献することであり、人の役に立たない仕事はない。どんな職業に就いても、必ず人の役に立っているんだと誇りを持って、自分の人生を一歩ずつ歩んでいってほしい」と激励し、授業を締めくくった。

課外授業「NEW STYLE」

砺波市立出町中学校２学年を対象に「社会に学ぶ14歳の挑戦」の代替として課外授業と工場見学を開催した。今後、課外授業講師派遣制度の新たな活用が見込まれる。

第２回　砺波市立出町中学校

＜第１部：課外授業＞

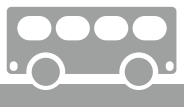
令和３年６月17日㈭、稲垣晴彦氏（北陸コカ・コーラボトリング㈱取締役会長）が砺波市立出町中学校において、２学年228名を前に「仕事を通して学んだこと」をテーマに課外授業を行った。

稲垣会長ははじめに「みなさんは幸せですか」、「“ありがとう”の反対語は何ですか」と問いかけた。“当たり前”と答えた生徒を称賛し、かつて訪れたアメリカでのエピソードとして、降水量が少なくスプリンクラーで水が撒ける範囲で耕作するため円形となった畑を見たことを披露した。「それまでは水田の隅々まで水が行き渡っていることが当たり前と思っていた。この社会は様々な要素から成り立っていると気付いた。人は思ってもみなかったものに気付くと、嬉しく幸せな気分になる」とした上で「勉強は何のためにやるのか、なぜ勉強しなければならないのか。それは、自分が幸せになるためである」と訴えた。

次に、幸せな人生を送る３つの要素として①自分の人生にとって“美しい”ものを見つけること、②“仕事をしている人生”と“していない人生”のバランスをとること、③自分より大切なものがあると感じられる“豊かさ”を持つことを挙げ「自分にとっての美の発見を勉強の目的とすること、これからの様々な出会いの中で自分より大切なものがあると思えるようになることが重要」と語りかけた。

「若い人が持つ無限の可能性を活かして、社会へ大きな価値を提供してほしい」と稲垣会長

最後に「今後直面する物事すべてが上手くいくとは限らない。そこで“矛盾を大切にする”ことを意識してほしい。“正しいのはＡかＢか”だけではなく“ＡとＢは、これを掛け合わせてＣ（という価値）を見つけるためのヒント”と捉えてほしい」とエールを送り、講演を締めくくった。



＜第２部：工場見学＞

令和３年７月１日㈭、砺波市立出町中学校２学年５組、６組計80名が若鶴酒造㈱（砺波市三郎丸、小杉康夫取締役社長）を訪れ、三郎丸蒸留所を見学した。

まず、北陸コカ・コーラボトリング㈱広報CSR推進課の米田智氏より施設概要の説明があり、続いて三郎丸蒸留所においてウィスキー製造工程や世界初の鋳造製ポットスチル（蒸留器）などを、同課の小林淳志氏、神田周子氏より説明を受けながら見学した。

工場見学（蒸留器）

工場見学（樽貯蔵庫）

生徒たちは説明を熱心に聞きながらメモを取るとともに、見学後に米田・小林両氏に若鶴酒造㈱戦略企画課課長代理の中西真紀子氏を加えた質疑応答では「なぜ水や（醸造樽の）木材など地元の素材をたくさん使って製造しているのか」「仕事をするうえで一番大事なことは何か」など積極的に質問し、働くことについて大いに学んだ工場見学となった。

質疑応答

（他クラスの工場見学は７月８日、15日に実施）

次世代を担う教員へのメッセージ

稲葉氏・尾城氏・尾山氏・土屋氏が中堅教諭等資質向上研修で講演

稲葉代表取締役

＜稲葉 伸一 氏＞

稲葉代表ははじめに、建築設計の仕事は「人（顧客）の気持ちを図面という形にすることと考えている」こと、各分野の技能を持ったスタッフでチームを編成し実施していることを紹介し「スタッフのマッチングや社員がその能力を発揮するための環境を整えることがリーダーの役割」とし、その際に「自身は常にフェア（公平）であるよう意識している」と強調した。

次に「リーダーとは」について、自身の経験や経営者として日頃から心掛けていることなどを基に語りかけた。

（1）顧客、目的を意識する

野球選手の仕事は“野球をすること”ではなく“野球をして勝つこと、勝ってファン（顧客）を喜ばせること”である。リーダーは、顧客は誰なのか、それをやる目的は何なのかを忘れてはいけない。

（2）芸の肥やし

ほんの少しでもよいので、興味があることは積極的にやってみること、好奇心を忘れないことは大切と考えている。こうした体験を通じ自身の中に“引き出し”をたくさん持つことは、自身の助けになるだけでなく友人づくりなどにとても有効である。

（3）企業は畑、学校は苗床

社員のやりたいことを開花・結実させる場が企業で、それまでの準備をするところが学校であると思っている。経営者として、社員が活躍できるための物理的・人的な環境を整えることが自身の仕事であると考えている。

最後に、リーダーとして忘れてはいけない事は“何のためにそれをやっているか”であるとし「やっているうちに迷うこともあると思うが“何のために”を思い出すこと、思い出させることが大事。常に“何のため、誰のため”を意識してほしい」と、次世代のリーダーへアドバイスした。

尾城支店長

＜尾城 敬郎 氏＞

尾城支店長はまず、自己紹介として国内外での勤務経歴を紹介。「各国の文化や習慣が違う中で、リーダーに共通すること」という観点から、今求められるリーダー像として①共感できる人、②時代やTPOに合っている人、③Willingly Follower（喜んでついてくる人）を作れる人、④その先を伝えられる人、⑤副キャプテンと連携できる人、であると訴えた。

次に、求められるリーダーになるために必要なことを、3つのキーワードを示しながら語りかけた。

（1）“まさか”にどれだけ対応できるか

日常的なマスク着用などについて多くの人が“まさかそんな時代がくるとは”と感じていると思う。見通しのつきにくい時代のリーダーシップ論としては、いくつかの選択肢を持った“多様なリーダーシップ論”である。

（2）平易な言葉でフィードバック

山本五十六の言葉は平易な表現が用いられているし、Jリーグ監督時代のジーコは通訳時にごく簡単なポルトガル語で話したそうである。これからのリーダーは、なるべく平易な言葉で表現することが必要。平易な表現であれば言った分だけ、生徒から反応が還ってくるのではないか。

（3）リーダーシップのローテーション

“まさか”の時代、一人でやるより複数でやったほうがクラスの価値が高まる。意見を引き出す話し方や、それができる人の存在が重要となる。これが機能すると教師の負担が軽減できる。その分を、うまくいっていない子の背中を押してやることこそ、教師としての真のリーダーシップではないか。

最後に、トライアスロン（Triathlon）のスペルは「Try！明日論」であり、Impossible（不可能）という単語に‘（アポストロフィ）を付加するとI'm possible（できる）になるとし「明日こうなりたいから今これをする、というビジョンや、ネガティブをポジティブに変えるよう発想の転換を意識してほしい」とエールを送り、講演を締めくくった。

令和３年６月30日㈬、稲葉伸一氏（㈱三四五建築研究所代表取締役）、尾城敬郎氏（三菱商事㈱北陸支店長）、尾山謙二郎氏（マンパワーセキュリティ㈱代表取締役）、土屋誠氏（日本海ガス㈱取締役社長）の４氏が、経験年数11年目の教員58名を対象とした中堅教諭等資質向上研修（富山市教育委員会主催）にて「組織のリーダーとは」「若手の育成」をテーマに講演を行った。

尾山代表取締役

＜尾山 謙二郎 氏＞

尾山代表はまず、自己紹介として会社設立の経緯などを紹介。自身の経験を基に、社会の形が“しがらみからつながりの社会”へ移り変わり、自立や自己責任など“個”の重要性が増す中で、歴史観を学ぶこと、正誤や利害ではなく善悪で判断する“ものさし”を持つことが必要であると説き、リーダーや若手の育成に必要なことについて語りかけた。

（１）組織のリーダーとは

①リーダーとは“希望を配る人”だ（ナポレオン）

人はどれだけ苦境にあっても希望があれば前進できる。常に希望を配ることがリーダーの仕事である。止める理由を探さず希望を語り続けられるよう、本や映画など心を揺さぶるものに多く触れ、人を“感化”できるようになってほしい。

②誠実さと感謝する心

感謝の対義語は当たり前、ありがたいの語源は“有り難い”で対義語は無難である。子供達には“有り難い人生”がより豊かであることを伝えてほしい。

③責任を取る覚悟と自覚

ゲーテは「涙とともにパンを食べた者でなければ人生の味はわからない」と述べた。皆さんは人と向き合っている仕事、どんどん失敗・挫折し、泣いていい。その分だけ、人生の味が美味くなる。

（２）若手の育成

①信頼感と愛情

子供と向き合う時に必要なのは信頼感と愛情である。愛とは相手を信じて待つこと、情とは自分の感情を優先し行動すること。このバランスを取ることが重要である。

②人の成長に必要な３つの役

人の成長には「間違ったときに叱ってくれる人」「悩んでいるときに話を聞いてくれる人」「頑張っているとき、自身を失っているとき見守ってくれる人」が必要。ぜひこの役割を担ってほしい。

最後に、中国後漢の崔子玉（さいしぎょく）の座右の銘「四殺」の一部“人は、学問・教育を誤ることで天下・国家を滅ぼす”を引用し「みなさんは大きな意義・価値のある大切な仕事を担っている。再度、心に留めて頑張ってほしい」と熱いエールを送った。

土屋取締役社長

＜土屋 誠 氏＞

土屋社長ははじめに、自己紹介を兼ねて自社における社員の役割等級制度を紹介。入社10年目の社員には担当業務の問題点・課題を整理し改善を提案・実施する能力を求めていると語った。

次に、リーダーには自身の意見に対し部下が共感してくれること、自分が中心になって取り組む意識が重要とし、リーダーとして求められる３つの要素について、日々意識していることを交えながら語りかけた。

（１）指導力：リーダーシップ

指導力とは“どちらかというと教え導く、勉強の方法などに関する助言を与え導く”こと。厳しい事業環境下ではチームでの取り組みが必要であり、チームでどう取り組むか、どうまとめるかがリーダーに求められる。メンバーに、何をしなければならないのか、目的は何か、などを理解・共有してもらうよう導くことが重要となる。

（２）人材育成

入社10年目は“あいつ上手に教えているな”など成長の差が出てくる世代である。これまでは個人の努力である程度、形にできるがリーダー・管理職となると、本人ひとりの力だけでは目標達成は難しくなる。優秀だが協調性が乏しい人、コミュニケーション力は高いが今一歩伸び悩む人をさらに伸ばすチャンスを与えること、自分は離れても代わりを担ってくれる人がいること、育てることが求められる。

（３）責任感

本来は「あの人なら、責任感で私達をまとめてくれる」のように、リーダーは上から与えるのではなく下が持ち上げるのが理想である。責任感がなければリーダーは務まらない。部下が“この人はリーダーとなるべき人”と認めた人が真のリーダーであり、そのような人を任命するよう意識している。

最後に、新入社員を指導するメンター制度や定期的な面談などの取り組みを紹介しながら「これまでの“わからなければ聞いてくるだろう”では難しい時代。如何にコミュニケーションをとるかが若手の成長・人材育成には必要であるとともに、聞き手側の成長にもつながる。積極的に声をかけてほしい」とアドバイスを送り、講演を締めくくった。

リレーエッセイ⑩③

46年のジュエリー人生

嶋　龍仁
（有限会社ジェイシーバール 取締役社長）

私が生まれ育ったのは、文化スポーツ委員会で取り上げた万葉集と大伴家持ゆかりの地である高岡市伏木です。小中高と伏木から一歩も出ることがなかった私は、今の職業とはかけ離れた、伏木で最も大きかった料亭の板長を務め、後には独立して伏木駅前に小料理屋を営んだ父の背中を見て育ちました。店は、伏木海陸運送をはじめ、伏木にある工場に勤める方で毎晩賑わっていました。中学生になると、お昼の弁当を自転車や路面電車でよく配達に行かされました。平成の大改修を終えた勝興寺は、住まいからすぐの急な坂道を上ったところにあり、境内は格好の遊び場でした。７不思議の、①実ならずの銀杏②天から降った石③水の枯れない池④屋根を支える猿⑤三葉の松⑥雲龍の硯⑦魔除けの柱は、子供の遊び心をくすぐる遊具のようなものでした。改修が終わり、また富山県の観光地の幅が広がったと嬉しく思っています。

46年前、結婚を機に伏木を離れ富山に移り住み宝飾業界に関わるようになりましたが、当時は富山から出ることもなく、後になって海外へ出向き宝石を買い付けている自分の姿を想像もしていませんでした。この46年間は、日本の宝飾業界の歴史とも言える時代でした。勤務先は、時計・宝石・眼鏡を扱う兼業店で、売れているのは時計・眼鏡が主で、宝飾品はまだ一部のお客様の世界でしたが､高度成長期を経て「モノ」が飛ぶように売れ勢いのある時代でしたので、今後伸びていく予感がありました。婚約指輪を贈る習慣もこの頃から増えはじめました。宝飾品市場が拡大した背景には、固定されていた円相場が変動相場制へ移行し、1973年のニクソンショックがきっかけと言われる金本位制が終焉を迎えたことで、私たちが扱う宝石の輸入価格やジュエリーを作る金も安くなり、ジュエリーが求めやすく身近なものとなったことでした。国内には多くの宝飾メーカーが生まれ一気に市場が拡大しました。更には、1985年のプラザ合意による急速なドル安・円高が進んだことも拍車をかけました。「婚約指輪は給料の３ヶ月分」。そんな言葉が生まれたのもこの時代です。その後、バブル期を経て宝飾業界も国内市場は減少の一途辿っています。私が独立した1997年は、金融機関が破綻する厳しい時代でしたが、海外での宝石買い付けとデザイン・製作までをすべて自社で一元管理することで、これまでの流通に比べ安く提供できる価格を実現したことと、テーマを大切にデザインから提案する独自のオーダーメイドで、結婚指輪のオーダー市場を構築するなど新しい宝飾店のスタイルを作り上げてきました。現在、宝石とジュエリーは消費するものではなく、つないで行くものという考えの弊社には、自身や親から譲り受けたジュエリーのリメイク相談が大変多く、永遠に輝き続ける宝石を未来につながせていただいています。ジュエリーには、大切な思いがこめられており、私たちは生涯寄り添ってお世話をしてつないで行くことが使命だと考えています。SDGsが問われる時代、地球からの贈り物である天然宝石は存在自体がサスティナブル。この自然の恵みの魅力を伝え、これからもつないで行きたいと思います。最後に、この機会を与えてくださった小川万里絵様に感謝申し上げます。

（**次号は㈱柿里 取締役社長の佐藤幸博 様です。**）

活 動 報 告

5月1日～6月30日

○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内　　容	出席者
6月12日㈯ オンライン講演	創立60周年記念講演会 講師：慶應義塾大学 環境情報学部 教授 ヤフー株式会社 CSO（チーフストラテジーオフィサー） 安宅 和人 氏 演題：「残すに値する未来を考える」	約850名

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内　　容	出席者
5月6日㈭ 10：00～11：30 事務局会議室	第1回企画総務委員会	今年度の事業計画について	6名
5月7日㈮ 16：00～17：30 事務局会議室	人財活躍委員会 第1回正副委員長会議	2021年度活動方針・計画について	10名
5月18日㈫ 16：00～17：30 事務局会議室	地域創生委員会 第2回正副委員長会議	・第1回委員長会議について ・2021年度活動計画について ・フィールドワークについて	9名
5月21日㈮ 11：30～13：00 事務局会議室	企業経営委員会 第6回正副委員長会議	今年度の活動計画・スケジュール等について	6名
5月28日㈮ 11：00～13：00 事務局会議室	教育問題委員会 第2回正副委員長会議	今次委員会活動計画（グループ別）について	8名
6月14日㈪ 11：00～12：30 事務局会議室	文化スポーツ委員会 第3回正副委員長会議	今年度委員会の活動計画及びスケジュールについて	11名
6月17日㈭ 16：00～17：30 事務局会議室	人財活躍委員会 第2回正副委員長会議	2021年度活動方針・計画について 2021年度活動スケジュール（案）について	9名
6月22日㈫ 16：00～17：30 事務局会議室	地域創生委員会 第3回正副委員長会議	2021年度活動計画について	10名

○課外授業講師派遣

開催日時	学　校	対　象	講師・演題
6月3日㈭	砺波市立出町中学校	3学年213名	山野 昌道 氏 「未来を生きる」
6月17日㈭	砺波市立出町中学校	2学年228名	稲垣 晴彦 氏 「仕事を通して学んだこと」
6月30日㈬	富山市立北部中学校	全学年474名	遊道 義則 氏 「働くということ、生きるということ」 ～知っている・できる・やる～

○同友会諸会合

開催日	内　　容	場　所	出席者
6月28日(月) ～29日(火)	経済同友会中央日本地区会議事務局長会議 （静岡経済同友会東部協議会主管）	静岡県三島市	有藤事務局長

○その他の会合

開催日	内　　容	場　所	出席者
5月9日(日)	令和3年度県民ふるさとの日記念式典	富山県教育文化会館	中尾特別顧問 麦野代表幹事 塩井代表幹事
5月11日(火)	「富山マラソン2021」第1回実行委員会	富山県民会館	麦野代表幹事
5月11日(火)	第1回委員長会議	富山電気 ビルデイング	16名
5月12日(水)	令和3年度富山県水と緑の森づくり会議	富山県民会館	稲田常任幹事
5月25日(火)	（公財）富山県暴力追放運動推進センター 第1回理事会	ANAクラウン プラザホテル富山	東澤幹事
5月27日(木)	第3回あいの風とやま鉄道新経営計画検討 ワーキンググループ	富山県民会館	有藤事務局長
6月1日(火)	とやま地産地消県民会議	富山県民会館	有藤事務局長
6月2日(水)	富山県との意見交換会	ホテルグランテラス 富山	富山県 9名 当会 9名
6月6日(日)	第80回あけぼの会	呉羽カントリー クラブ	70名
6月30日(水)	富山市中堅教諭等資質向上研修会 （講師）	Toyama Sakuraビル （富山市教育委員会）	稲葉 伸一 氏 尾城 敬郎 氏 尾山 謙二郎 氏 土屋 誠 氏

事務局からのお知らせ

事務局体制に変更がございましたので、担当委員会とあわせてお知らせいたします。

＜富山経済同友会事務局メンバー＞

事務局長	**有藤（ありとう） 直樹（なおき）**（㈱北陸銀行）	**（担当委員会：企画総務）**
事務局次長(新任)	**梅野（うめの） 裕真（ゆうま）**（北陸電力㈱）	**（担当委員会：人財活躍、企画総務副担当）**
主席経済交流員	**石田（いしだ） 典子（のりこ）**（富山県）	**（担当委員会：企業経営、文化スポーツ）**
主席経済交流員	**吉川（よしかわ） 賢一（けんいち）**（富山市）	**（担当委員会：教育問題、地域創生）**
事務局員	**福田（ふくた） 正美（まさみ）**	

なお、7月1日付で大蔵崇史氏（前 事務局次長）は北陸電力㈱に帰任し、電気事業連合会広報部（東京）勤務となりました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

今後の予定

開催日	対　象	行　　事	場　所
7月15日㈭	幹事以上	7月幹事会	オークスカナル パークホテル富山
7月15日㈭	全会員	7月会員定例会〔オンライン登壇〕 講師　大野 均 氏（元ラグビー日本代表）	オークスカナル パークホテル富山
8月29日㈰	全会員	「同友会の日」（富山ＧＲＮサンダーバーズ戦）	県営富山野球場
9月11日㈯	あけぼの会 会員	第81回あけぼの会ゴルフ・コンペ	呉羽カントリー クラブ
10月7日㈭	正副代表幹事 担当委員長等	経済同友会中央日本地区会議	静岡県三島市 （静岡経済同友会主管）
10月11日㈪	幹事会	10月幹事会	ホテルニュー オータニ高岡
10月11日㈪	全会員	10月会員定例会 講師　（公社）経済同友会副代表幹事･地方創生委員長 ㈱リコー 代表取締役 社長執行役員･ＣＥＯ 山下 良則 氏	ホテルニュー オータニ高岡
11月9日㈫	新会員	新会員歓迎オリエンテーション・懇親会	ホテルグランテラス 富山
11月25日㈭ ～26日㈮	全会員	第13回日本海沿岸地域経済同友会代表幹事 サミット	ホテルニュー オータニ鳥取 （鳥取県経済同友会主管）
12月7日㈫	全会員	年末会員定例会・懇親会	ANA クラウンプ ラザホテル富山

※新型コロナウイルス感染状況により、変更となる場合がございますのでご了承願います。

【延期の行事】（新型コロナウイルス感染症拡大対策の為）

開催日	対　象	行　　事	場　所
7月2日㈮	全国立山大使の会会員 （当会ＯＢ・ＯＧ）	第3回全国立山大使の会	東京都内

〔表紙写真〕

創立60周年記念講演会

6月12日㈯、創立60周年記念講演会を開催し、慶應義塾大学環境情報学部教授・ヤフー㈱ＣＳＯの安宅和人氏にオンラインで講演いただいた。

講演中、安宅氏から「祝60周年」と、お祝いのメッセージを頂戴した。

発　行　所
富山経済同友会
富山市牛島新町5番5号　インテックビル4階
電　　話（076）444―0660
Ｆ　Ａ　Ｘ（076）444―0661
e-mail:doyukai@po.hitwave.or.jp
http : //www.doyukai.org/

わが青春の1枚

パネルディスカッション会場にて（1993年９月）

日本青年会議所全国大会表彰会場（岩手県盛岡市）にて
上段左から２人目が筆者（1994年）

若き日のまちづくり活動

増山電業株式会社　代表取締役　　増 山 一 雄

今からおよそ30年前の富山市は、郊外の大型商業施設のオープンなどに伴い、中心地区の商業施設や人口が郊外に移る“人口のドーナツ化現象”になりつつありました。当時、中心地区には10校の小学校（愛宕、安野屋、八人町、総曲輪、西田地方、星井町、五番町、清水町、柳町、東部）がありましたが、新１年生が10人にも満たず、複式学級が市中心部に生まれる事が現実味をおびて来ていました。その状況下のもと、富山青年会議所（新田八朗理事長時）は教育環境委員会を立ち上げ、「富山市中心地区小学校児童数平準化運動」に取り組んでいました。

富山市にも、通学区域審議会（有識者や議員、町内会長、PTA 等で構成されていたと記憶）がありましたが、各々の立場から「少人数のどこが悪いのか」、「伝統ある我が校は残して欲しい」、「何が適正規範なのか」、「早く統合して欲しい」など意見は様々で結論は出ず、１学年２学級以上が望ましい、との内容が示されるに留まっていました。

委員会の立ち上げの翌年（塩井保彦理事長時）には、まず、子供達にとって適正な児童数の小学校とすることへの問題点を洗い出し、提起することに焦点を当てました。写真は、各校下の方々との意見交換会やパネルディスカッションの開催、市民への啓豪活動など、青年会議所活動にどっぷり浸かっていた頃のものです。もう１枚は、日本青年会議所全国大会の褒賞委員会において、この地域活動を発表し、賞を預いた時のものです。仕事とは関係ない所で、当時小学生を持つ親として、子供達の為にと真剣に取り組んだ時期でもありました。

時が流れ現在は、中心地区の小学校を統合した芝園、中央が新設され、１学年２学級を維持しております。対して富山市郊外の小学校は、近年の人口減少・少子化に伴い児童数が減少しています。いつの時代も、形を変えて何らかの問題は発生するもので、将来を担う子供達の教育環境を考え続けなければならないのだろうと感じているところです。